

伯耆町の新たなにぎわいの場へ

〜伯耆にぎわいフードマルシェ〜

伯耆町のグルメやステージイベントが一堂に集まる「伯耆にぎわいフードマルシェ」が9月24日（土）、植田正治写真美術館横で開催され、多くの人で賑わいました。

今回初開催の「伯耆にぎわいフードマルシェ」は、植田正治写真美術館の横に新設された大山ハムブランドで知られる大山春雪さぶる（株）の直売所「テラスザダイセン」のオープンに合わせて、大山山麓の新たな立寄り場を盛り上げようと開催されたものです。

当日は、町内の3つの和太鼓グループのステージ、地元の人気店舗のたこ焼きやパン、大山おこわなどの販売があり、来場者はそれぞれのステージや



和太鼓のステージ

伯耆町のごグルメを楽しみました。直売所「テラスザダイセン」ではお買い得のハムやベーコンなどが販売されたほか、工場で作られたソーセージが入ったホットドックも販売され、大山を眺めながらホットドックをほおばる来場者の姿も見られました。

来場者は「こんなに賑やかなイベントは久しぶり。演奏を聴いたり美味しいものを食べたりと、とても楽しくワクワクするイベントだった。（テラスザダイセンには）天気のいい日にのんびりにまた来たい。」と話しました。



直売所には長い行列が



たこ焼きとかき氷を食べてにっこり

旅する蝶に魅了されて

〜アサギマダラが好きな仲間たちの写真展〜

大山国立公園にブナを中心とした森づくりの活動をしている大山ブナを育成する会は、10月6日（木）から18日（火）の13日間、大山ガーデンプレイス食堂横展示室で「アサギマダラが好きな仲間たちの写真展」を開催しました。

アサギマダラは、1,000km以上も海を越えて旅をする蝶で、羽を広げると10cm程度、ステンドグラスのような美しい姿が特徴です。羽の色が浅葱色（あさぎいろ）で、黒や茶色のまだら模様があることからその名がつけられたといわれています。

この写真展は、大山ブナを育成する会が、アサギマダラの休息地となるよう大山ガーデンプレイス付近の花園で3年前からフジバカマを植えており、アサギマダラがこの大山のふもとにやってくる時期に合わせて開催したものです。写真展には大山周辺で撮影された20点以上の写真が展示され、それぞれ表情の異なる美しいアサギマダラが収められていました。



羽の躍動感や優雅な美しさが伝わってきます